

どうぶつ眼科センター開設にあたり

平成22年12月31日付、管轄省庁への届出医師の数は約30万人です。そのうち眼科医は約13000人です。これに対して、小動物獣医師の数は人の眼科医とほぼ同数である約13000人です。

では、獣医眼科医の数は？

恐らく都道府県の数より少ないでしょう。東京都と神奈川県で1398件の動物病院が開設届けを出しています。その中で白内障手術を行える施設は？ (平成22年12月31日現在)

恐らく指折り数える程度でしょう。理由は、動物がしゃべらない、じっとしていない、高価な設備、指導者が少ない、動物に眼科があるの？という認識不足、等、様々な事によると思います。

しかし、動物にも2つの眼があり、人と同じように眼の病気はあるのです。もの言わぬ動物達に獣医療行為を行えるのは獣医師だけです。

どうか眼が悪いことをあきらめないでください。

ささいなことでも私達に相談してください。

まずは動物にも眼科診療ができるんだ！とお気付き下さい。

いつまでもキラキラと輝く瞳を失わないために…

2012年10月10日

ハート動物病院 病院長 伊藤卓巳

どうぶつ眼科センター 代表 伊藤卓巳

眼科検査のすすめ方

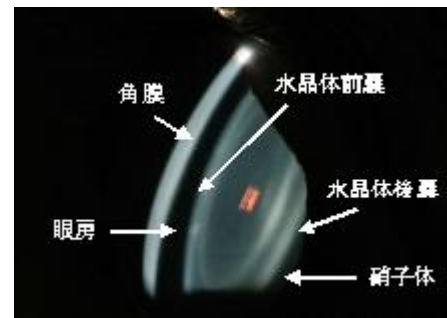
「眼は口ほどにモノをいう」と言いますが、眼は健康状態の鏡と言われる。眼を見ればその子の健康状態が分かることも多いです。しかし、眼だけにとらわれずに全身状態から診ていく事が大切です。

問診⇒身体検査⇒血液検査、画像検査、心電図、エコー、尿・糞便検査などは予め行っておきます。

そして、眼を診ていきます。外側から内側へ、広く浅く入り、深く詳細に診ていきます。

【スリットランプは聴診器と同じ】

一般診療で聴診や検温するように、眼科診療はスリットランプ(細隙顕微鏡)検査から始まります。まず、顔を診ます。全体から診ていきます。

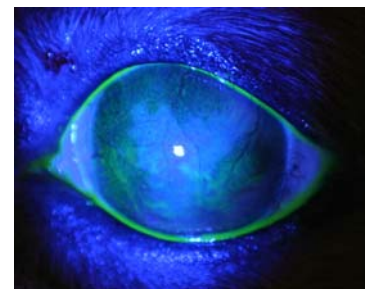


【表面を診る】

まばたき、涙量、角膜、眼圧、前眼部、ぶどう膜、等、眼の表面、前ぶどう膜を診ていきます。



眼圧測定

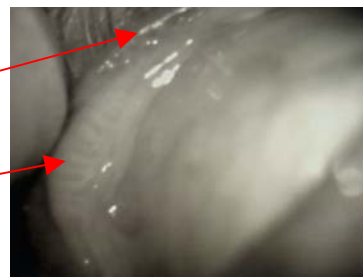


【赤外線撮影】

マイボーム腺を観察します。

マイボーム腺開口部

マイボーム腺
(縦の腺構造)



赤外線カメラで見たマイボーム腺の様子

【眼の奥を診る】

散瞳後、硝子体、眼底を診ていきます。



Clearview

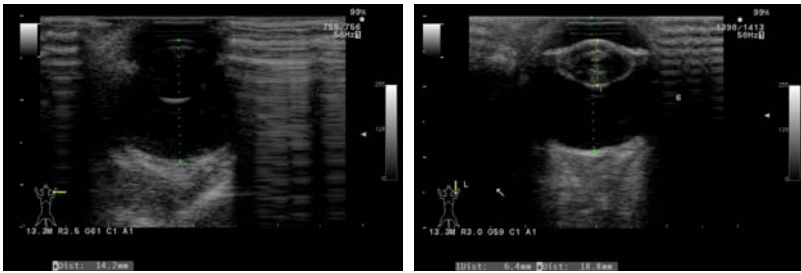


眼底像

【精密検査】

超音波診断装置により眼の奥を画像診断します。

網膜電図(ERG)を計測し、光受容体の機能を調べます。



エコーで見た眼(左図:正常、右図:白内障)



ERG 測定の様子

【画像によるご説明】

眼科診療は、画像を多く使います。画像を記録することにより、経過が一目でわかります。

【手術】

あるべき形のまぶたを作る、傷ついた角膜を結膜・瞬膜・眼瞼を利用して保護する、逆さまつげを処理する、高眼圧にならないように房水(眼の中の水)排水路を作る、白内障手術、等



顕微鏡下での手術



超音波乳化吸引法



超音波乳化吸引装置(Signature)

【日常の眼との付き合い方】

VISU160(日本で3台(H24.10.10 現在))

眼治療を受けた子は、簡易検査と診察を定期的(週1回~月1回程度)に受けましょう。眼のマッサージや Eye ケアは毎日行いましょう。

人の眼と異なることを忘れないでください。動物の眼は構造が浅く、まばたき下手、痛みに鈍感、病気が進行してから気づく、ことを忘れないでください。そして眼は治療が遅れると失明する恐れがあります。

大切なご家族が少しでも「おかしいな」と感じたら早めの眼科検査をお勧め致します。